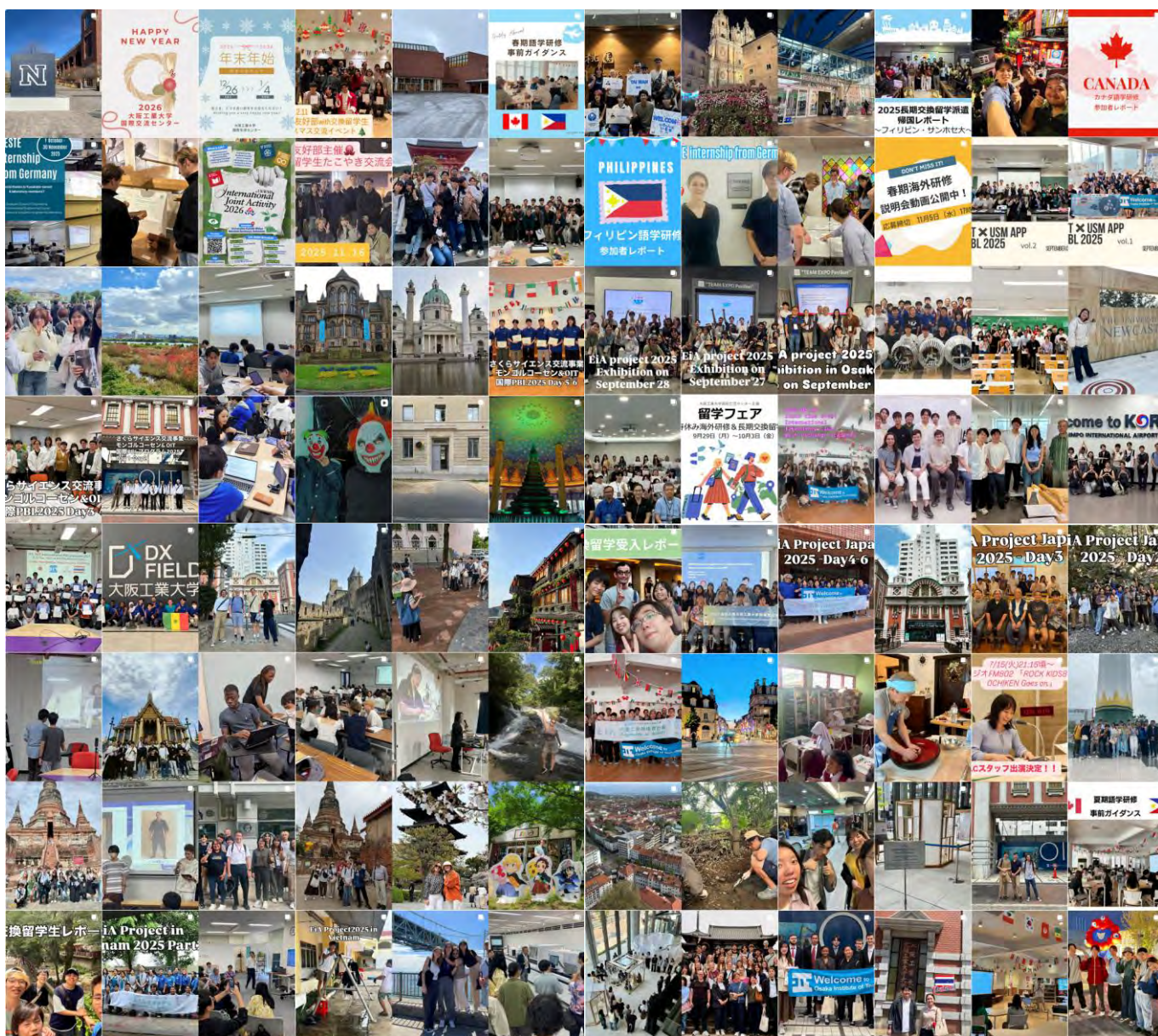


# 2025 年度 国際交流プログラム 活動報告書



# 目次

国際交流プログラム報告書の発行にあたって	2
国際交流プログラムについて	3
1. 海外語学研修プログラム	4
2. 文化体験プログラム	7
3. 国際PBLプログラム	9
4. IAESTE 海外インターンシップ派遣・受入	17
5. 長期交換留学（派遣）	18
6. 海外研究支援プログラム	20
学部・学科等の独自プログラム	22
キャンパスでの国際交流	25
海外交流協締結機関一覧	26
グローバル学習支援について・国際交流センター・LLC	29

表紙の写真は国際交流センターのインスタグラムからです。

ぜひフォローして活動の様子をリアルタイムでご覧ください。



Instagram @oit.kokusai





## 国際交流プログラム報告書の発行にあたって

本学の国際交流プログラムは、理工系ならではの特長を生かし、皆さんの目的・ニーズに合わせてさまざまな参加機会を設けています。派遣プログラムは Step1 の語学研修や文化体験、Step2 の国際 PBL（エントリー）、Step3 の国際 PBL（アドバンス）と海外インターンシップ（イアエステ）、Step4 の海外研究支援（主に大学院生対象）や長期交換留学など語学力や専門性に応じて段階別に提供しています。受入プログラムでは海外協定校等から国際 PBL や交換留学を通じて多数の留学生が来日しており、キャンパス内外で交流する機会がたくさんあります。2025 年度はこれらプログラムに延べ 865 人の本学学生が参加しました。

また、ランゲージ・ラーニング・センター（LLC）にはネイティブ講師と学生スタッフが常駐し、フリートークや個別指導（コンサルテーション）、パーティなど様々なサービスを体験できます。ここには国際交流好きの有志や留学生が多数集まるので、キャンパス内の日常で異文化に触れる機会に恵まれています。

活動場所や形態を問わず、多様な文化・価値観を持つ人たちと交流して、“他者を知り己を知る”ことは皆さんの視野を広げ、次のステップに進むきっかけにもなります。在学中にさまざまな国際交流プログラムに何度でも参加・チャレンジし、グローバル社会で活躍できる専門人材へと成長されることを心より願っています。

2026 年 3 月 吉日

# 国際交流プログラムについて

## About OIT International Exchange Programs

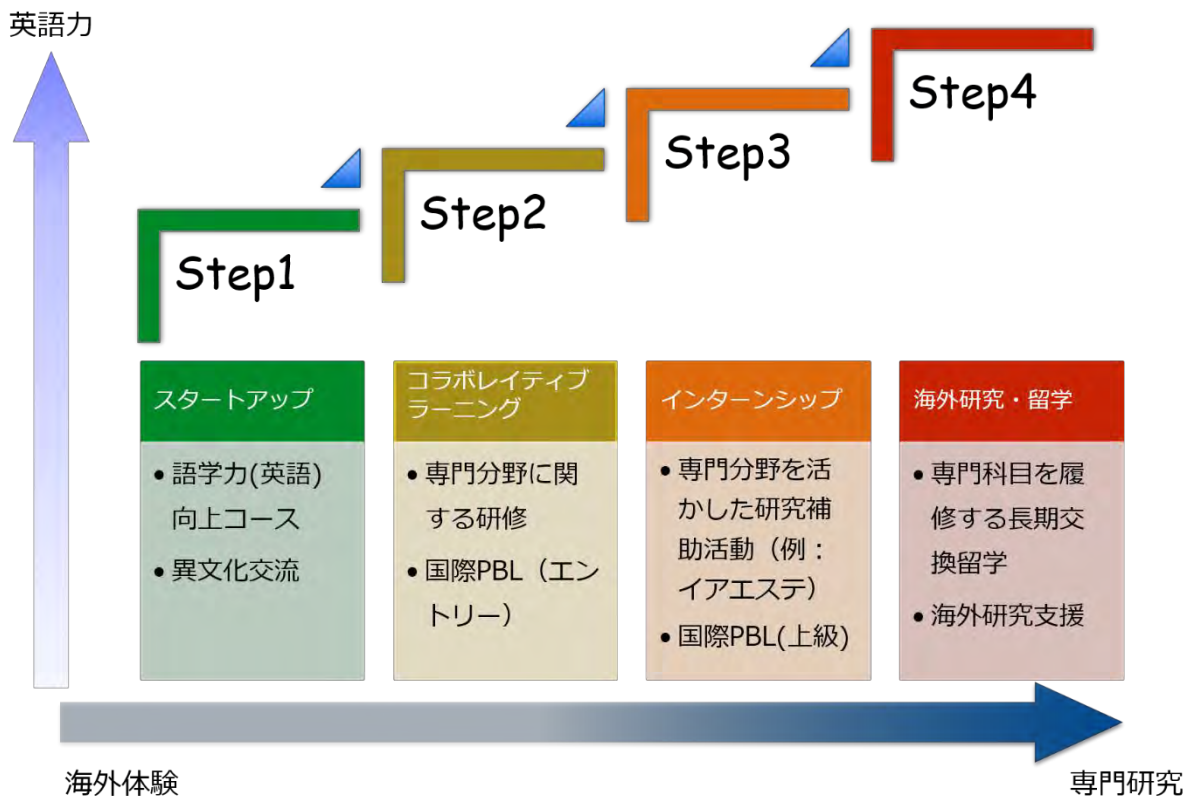
現代社会では、企業の生産拠点の海外移転、市場のボーダーレス化などにより、あらゆる活動に「グローバル化」が浸透してきています。本学における人材育成においても「グローバル化」への対応を最重要課題ととらえています。理系を中心とする本学としては、次の3点を「グローバル人材育成」のゴールとしています。

- ◆ 教育プログラム拡充と研究交流の相乗効果で持続発展性のある国際連携を推進する
- ◆ 多様な文化が共生できるキャンパス環境を構築し、学生・教職員の意識向上をはかる
- ◆ グローバル展開から得られた成果を積極的に地域・国際社会に還元する

上記の目標を達成するために、本学では次の点を重視して、さまざまな海外派遣プログラムを提供しています。

- 「グローバル社会」に対する入学時からの意識づけ
- 学年の進行に応じて段階的に高度化するプログラムを提供すること
- 海外の学生たちとの協働の実体験を通じた学びを取り入れること

国際交流・連携プログラム イメージチャート



# Step 1

## 1. 語学研修プログラム Language Training Programs

国際交流センターでは、夏期や春期の休暇期間中に、海外の語学学校や協定校などの協力を得て英語圏での語学研修プログラムを実施しています。学部生は一定の条件を満たせば、「海外語学研修」の単位認定が可能です。英語のスキルアップをめざす人、上位レベルの国際交流プログラム（国際PBL等）への参加を考えている人におすすめです。

2025年度は、フィリピン、カナダ、アメリカ、イギリスでのプログラムを実施しました。

### 2025年度 語学研修プログラム（オンラインまたは海外渡航）

国（都市名）	フィリピン（セブ）		カナダ（バンクーバー）
機関種別	語学学校		語学学校
機関名	GLC (Global Language Cebu)		CCEL (Canadian College of English Language)
実施形態	オンライン	海外渡航	海外渡航
内容	英語研修		英語研修
授業形態	マンツーマンレッスン	マンツーマンレッスンとグループレッスン	グループレッスン 1クラス平均12人
宿泊先	自宅	語学学校寮	ホームステイ
単位認定	あり（2単位）※ただし条件あり		
夏実施	80回コースもしくは120回コース	2025年8月～9月のうち2, 3, 4週間	2025年8月～9月のうち2, 3, 4週間
参加人数	11人	13人	7人
春実施	80回コースもしくは120回コース	2026年2月～3月のうち2, 3, 4週間	2026年2月～3月のうち2, 3, 4週間
参加人数	4人	12人	7人
実施概要	講師とのマンツーマンレッスンで英語を集中的に学びました。オンライン語学研修は費用を抑えられることや海外留学の経験がない学生にとって派遣前のステップとしてもお勧めです。	フィリピン・セブ島にある語学学校 GLC では、フレンドリーな先生とマンツーマンとグループレッスンで集中的に英語を学びました。寮では他国からの学生とルームメイトになり、授業外でも英語を使って交流しました。週末は様々なアクティビティに参加し、メリハリのある留学生活を送ることができました。	カナダ・バンクーバーにある語学学校 CCEL では、グループレッスンで集中的に英語を学びました。多国籍な学生が在籍していたので、日本ではできない異文化交流ができました。また滞在方法はホームステイだったので、学校外でも英語や異文化について理解を深めました。

## 語学研修プログラム 参加学生の報告



### Global Language Cebu

### 夏期プログラム（渡航型）

留学先でさまざまな人の話を聞く中で、同じ年齢でも挑戦している人が想像以上に多いことに気づきました。英語を磨いて将来の準備をしている人、英語を使って起業を目指す人、実際に行動を起こしている人もいました。こうした姿は、日本にいたら身近に感じられなかったと思います。私は彼らの前向きさや行動力に触れて、大きな刺激と勇気をもらいました。今回の経験をきっかけに、これからは「できるか不安」と考える前に、まず小さくても一歩踏み出し、何か一つでも挑戦を続けていきたいです。

[工学部環境工学科1年] 2週間プログラムに参加



先生・クラスメイトと

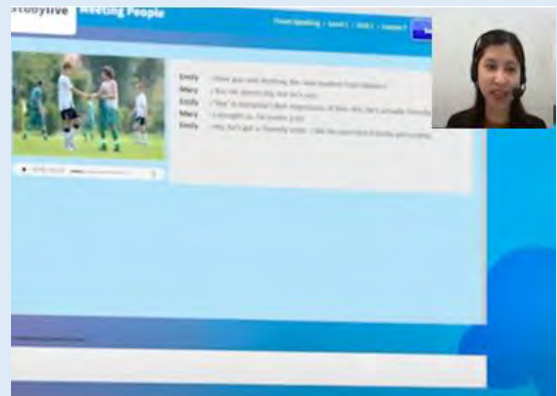


### Global Language Cebu

### 夏期プログラム（オンライン型）

オンライン留学参加前は、発音や文法の間違いが怖く、英語で話すことに消極的でした。しかしマンツーマン授業で先生が発音を細かく直し、語彙に合わせて表現を整理してくれたことで、会話で使える言い回しが増え自信ができました。完璧さにこだわらず「まず伝えてみよう」と挑戦できる姿勢は、今後の大学の語学授業にも生かれます。今回の経験はこれからの学びや将来に大きく活かせると感じています。これからはディスカッションや英語プレゼンにも積極的に挑戦し、アルバイト先で外国のお客さんと英語で円滑にやり取りできることを目標に、仕事の場でも実践を重ねて英語を強みにしていけるように努力を続けていきます。

[ロボティクス&デザイン工学部システムデザイン工学科3年]  
120回コースに参加



オンライン授業の様子



### Canadian College of English Language

### 夏期プログラム（渡航型）

今回のプログラムは初めての海外経験で、出発前は緊張もありましたが、「失敗して成長しよう」と前向きに臨みました。語学学校初日に先生から「間違いを気にせず話してほしい」と励まされ、失敗を恐れず挑戦する姿勢が身につきました。学校外でも現地の人と関わりたいと思い、公園やビーチで自分から話しかけるなど行動力が高まりました。英語は勉強ではなく人とつながる道具だと実感し、将来は建築分野で海外プロジェクトや国際交流に関わるため、専門内容を英語で理解し意見を発信する力を伸ばしたいです。今回の経験はその第一歩となり、異文化協働の大切さも学び、進路の選択肢を広げました。今後も学びを継続します。

[工学部建築学科2年] 2週間プログラムに参加



クラスメイトと

## 2025年度 海外大学提供プログラム（海外渡航）

国（都市名）	アメリカ（サンフランシスコ）	イギリス（オックスフォード）
機関種別	協定大学	大学
機関名	サンフランシスコ州立大学	オックスフォード大学 - インターナショナルイングリッシュスクール
内容	英語研修と文化体験	英語研修と PBL 型学習
授業形態	グループレッスン	グループレッスンと オンラインマンツーマン（ハイブリッド型）
宿泊先	ホテル	ホームステイまたは大学寮
単位認定	あり（2単位）※ただし2週間プログラムは対象外。また一定の条件を満たすこと	
夏実施	2025年8月11日～8月29日（3週間）	2025年8月25日～9月12日（3週間）
参加人数	1人	3人
春実施	2026年2月17日～3月14日（3週間）	2026年2月9日～27日（3週間）
参加人数	参加者なし	1人
実施概要	海外協定校が提供する語学研修と文化体験のプログラムです。大学での英語授業だけでなく、サンフランシスコのカラフルで多様な地域を探索しながら、英語力を身につけました。また、サンフランシスコ・ベイエリアの芸術、ビジネス文化、テクノロジーについて学びました。	ヨーロッパ、アジア、南米、中東からの学生が参加する国際的なクラスで、英語4技能を習得。加えて、気候変動、ジャーナリズム、LGBTQ+、人種、SDGs、多様性等々、グローバル社会における様々な問題について活発に話し合いました。夕方は1対1の個別オンライン授業で会話力を磨きました。

### 参加学生の報告



**San Francisco State University**

渡米中にパスポートを紛失し、警察で紛失届を出して日本大使館へ相談するなど自力で対処した経験が、最も成長につながりました。最終的にバス運転手が大使館へ届けてくれ、現地の人々の温かさも実感しました。また、英語が十分に話せず会話が翻訳機頼りになった反省から、聞き取り・会話力を伸ばしたいという学習意欲が高まりました。買い物や注文、質問などの基本的なやり取りは少しできるようになり、今は単語学習と発話の機会を日課にして継続します。将来はファッション分野で英語接客ができるよう、春休みにアメリカの知り合いの飲食店で約2か月の接客にも挑戦しようと思っています。

[知的財産学部知的財産学科3年]

**夏期プログラム（渡航型3週間）**



サンフランシスコのフィッシャーマンズワーフにて



**Oxford University**

プログラムでは、国籍や文化の違いを超えて支え合える仲間と出会い、刺激的な日々を過ごしました。世界中の同世代が夢に向かって努力する姿に触れ、自分も挑戦したい気持ちが強まり、価値観や将来の選択にも影響を受けました。英語はテスト中心で不安でしたが、完璧でなくても自信を持って話す大切さを学び、間違いを恐れず会話を楽しめるようになりました。分からない語はその場で確認し、ボイスメモでのやり取りも通して実践力が向上。将来は国際的に活躍する客室乗務員を目指し、英語力と異文化理解をさらに磨きます。留学は不安でも行動すれば和らぎ、SNSや寮生活の交流を活かして挑戦してほしいです。

[ロボティクス&デザイン工学部空間デザイン学科3年]

**夏期プログラム（渡航型3週間）**



オックスフォード大学寮で仲間とピザパーティ

## 2. 文化体験プログラム Overseas Culture Experience Programs

海外協定校に 1～2 週間程度滞在し、現地学生との交流、施設見学、アクティビティ、ホームステイ体験などを通じて、外国の文化を体験するプログラムです。ニュース報道以外の現実を知ることができ、グローバルな視点が身につきます。海外に行ってみたい人、外国の文化に興味のある人、協定校の学生と交流してみたい人におすすめです。

2025 年度は、例年開催されている韓国、インドネシアのプログラムに加え、アメリカ・シリコンバレーでのプログラムに学生を派遣しました。

### 2025 年度 文化体験プログラム（海外渡航）

国（都市名）	韓国（大田広域市）	インドネシア（スラバヤ）	アメリカ（シリコンバレー）
機関種別	協定大学	協定大学	その他
機関名	大田大学校	ウィドヤ・マンダラ・カトリック大学スラバヤ	Google 社、Apple 社、スタンフォード大学等
内容	韓国語研修と文化体験	国際共同文化体験	アントレプレナーシップ育成型文化体験
宿泊先	大学寮	ホテル	ホテル
単位認定	なし		
実施期間	2025 年 8 月 8 日～24 日 (17 日間)	2026 年 3 月 1 日～3 月 8 日 (8 日間)	2026 年 2 月 15 日～2 月 22 日 (8 日間)
参加学生数	本学 1 人、摂南大学 9 人、大田大学校 19 人	本学 8 人、芝浦工業大学 16 人、国立台湾科技大学 5 人、ウィドヤマンダラ 24 人	本学 2 人、東京理科大学 7 人、千葉商科大学 1 人、バンタン専門学校 23 人
実施概要	初級韓国語の授業、文化施設見学、K-POP ダンスレッスン、フィールドトリップ（ソウル）等の活動を通して韓国の文化や歴史を学びました。特に、韓国語の授業は毎日 4 時間程度あり、クラス別に基礎からしっかりと学ぶ事ができました。伝統韓服体験や、うちわ作りなど韓国の学生とのグループワークを通して交流を深めました。	エコロジー問題に対処するための創造的なキャンペーンの模索をテーマに、スラバヤにある廃棄物管理会社の見学や参加校の学生とのグループ活動を行いました。ほかにはキャンパスツアーやインドネシアの文化と言語に関するオリエンテーションが開催され、参加学生にとって貴重な体験となりました。	シリコンバレーの巨大 IT 企業本社やコンピュータ歴史博物館などを訪問、フィールドリサーチをし、起業制度や知識をインプットしました。さらにスタンフォード大学学生とのデザイン思考型ワークショップやグループプレゼンテーションを通して課題型アウトプットを行うことで発展的な思考やポジティブな行動様式を体験しました。

## 文化体験プログラム 参加学生の報告



DaeJeon University

2025年8月派遣

実際に渡韓し、本場の韓国語を基礎からしっかりと学びたいと思い参加しました。毎日約4時間の韓国語の授業や、大田大学の学生と交流を通して、言葉が十分に通じなくてもジェスチャーや表情で通じ合えることが多く「言葉が完璧でなくても気持ちちは伝わる」事を実感しました。

韓国の学生とトッポッキなどの韓国料理と一緒に食べる中で、家庭ごとの味の違いを学び食事を通じた交流の楽しさを知りました。食事の場は言葉以上に人と人をつなげる時間であると実感しました。毎日新しい気付きの連続でしたが、次は長期交換留学を目標にしています。

[情報科学部データサイエンス学科1年]



プログラム参加メンバーと



Silicon Valley

2026年2月派遣

就職活動に向けての情報収集やマインドセットをしたいと思います。しかし、実際に現地で働く人や学生の話を見ると、働く事への熱意や、目標の明確さ感じ自分の見ている世界の狭さや将来に対するビジョンが詰められていない事に気が付きました。日頃の生活から主体的に自分の意思で考え、人脈と情報を積極的に集め、行動することの大切さを学びました。今後の就職活動の前に参加する事で、価値観が大きく変わりました。悔いのない人生選択ができるように準備を重ねることの重要さに気が付き、良い動機付けになりました。

[情報科学部ネットワークデザイン学科2年]



サンフランシスコの野球場 オラクル・パークにて



Widya Mandala Catholic University Surabaya

2026年3月派遣

本プログラムを通して、学生はSDGsに関する学びを深めるとともに、現地での生活や学生との交流を通して異文化理解を深めました。使い捨てプラスチック削減に関する学習や動画制作に取り組み、インドネシアで深刻なプラスチックごみ問題を知ったことで、環境問題を身近な課題として実感しました。また、交通や食事、街の雰囲気など、日本との違いを直接体験したことで、当たり前だと思っていた価値観を見直し、新しい視点で物事を考える大切さを学びました。

[ロボティクス&デザイン工学部ロボット工学科 2年]



折り紙で亀、鳥などを作って飾ったプレゼンブース

# Step 2,3

## 3. 国際 PBL プログラム International PBL Programs (Hands-on Engineering Programs)

学部2～3年生を主な対象として、海外の大学を活動の拠点に1週間程度の期間でPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）を実施するプログラムです。英語を使用言語として、海外の学生と混成チームを作り、それぞれの学生の専門性を発揮しながら、1週間程度、共通の課題に取り組むことで、学生の多様な能力を引き上げます。プログラムの内容によって、国際交流・連携プログラムの Step2（国際 PBL エントリー）、Step3（国際 PBL 上級）に分類されます。

### ◆ 国際 PBL の概要

#### プログラムの特長

PBL は、与えられた課題を制限された条件下で取り組むことで、学生の多様な能力を引き出します。その国際版は、グローバルな交流を通じて、PBL の達成感とダイバーシティ（多様性）を感じてもらうことが狙いです。



### ◆ 国際 PBL を行う意義



日本人とは異なる価値観を持った人たちと協働で作業に取り組むことで、予想外の多岐にわたるアイデアが生まれます。PBL のプロセスはイノベーションそのものなのです。本学では今後さらにグローバル化が進展する将来を想定して、異なる価値観を持つ海外学生との PBL が有効と判断し、2013 年度から本プログラムを開始しました。社会が求めるグローバル人材育成の目的の一つは「課題解決力」であり、本学が実施している国際 PBL はまさにこの趣旨に合致するものです。

本学では 2020 年度から SDGs（エスディージーズ/持続可能な開発目標）を共通テーマとして設定し課題に取り組んでいます。

## 工学部・都市デザイン工学科



## 派遣プログラム

**派遣先** 国立台湾科技大学（台湾）

**開催期間** 2025年8月24日～8月30日（7日間）

**参加学生** 本学 10人  
国立台湾科技大学 10人

**テーマ** 柱部材モデルの耐震設計・製作

### 実施概要

国立台湾科技大学とのPBLは2014年度から実施し、今回で9回目となりました。両大学の学生が混成チームで、指定材料と共通条件の下にモデルを設計・製作し、加振実験で耐震性を検証しました。安全性に加え材料の使い方やデザイン性も議論し、多様な発想が生まれました。参加者からは「完成イメージ共有が重要」「助け合いで信頼が深まった」との声があり、専門性と国際的視野の涵養に寄与しました。



開会式での集合写真

## 工学部・建築学科



## 派遣プログラム

**派遣先** 北京科技大学（中国）

**開催期間** 2025年8月18日～8月25日（8日間）

**参加学生** 本学 10人  
北京科技大学 6人

**テーマ** 日本と中国の伝統建築

### 実施概要

今年度は北京科技大学で国際PBLを実施。渡航前に京都と奈良の日本伝統建築（群）に対して、チームごとに調査対象を選定し、事前に調査ならびに情報収集を行いました。北京で現地の学生と合流した後、日本で事前調査した情報を共有し、北京科技大学の学生と混合チームを組み中国の伝統建築について調査しました。最終日にチームごとに調査結果を英語で発表しました。



現地調査@中国北京 天壇

## 工学部・機械工学科



## 受入プログラム

**参加大学** 国立台湾科技大学（台湾）  
カントー大学（ベトナム）  
チェンマイ大学（タイ）

**開催期間** 2025年8月18日～8月24日（7日間）

**参加学生** 国立台湾科技大学 11人  
カントー大学 4人  
チェンマイ大学 3人  
本学 15人

**テーマ** 風レンズ付き風車の設計・製作

### 実施概要

国際混成5チームで、3D-CAD (Creo) や空力解析ソフト (Q-Blade) を用いて設計し、モノラボで製作、風洞実験・振動測定で性能評価を行いました。毎日の進捗報告で課題を共有し、最終日は英語で成果発表。性能・デザイン・プレゼンを総合評価し上位チームを表彰しました。参加者からは「英語で協働できた」「役割分担しながら試行錯誤し、挑戦する大切さを実感した」との声があり、国際的視野を広げる機会となりました。



風車製作の調整の様子

工学部・電気電子システム工学科



受入プログラム

工学部・電子情報システム工学科

**参加大学** 南台科技大学（台湾）  
サンホセレコレトス大学（フィリピン）

**開催期間** 2025年8月31日～9月6日（7日間）

**参加学生** 南台科技大学 10人  
サンホセレコレトス大学 10人、本学 10人

**テーマ** 太陽光発電システムの「コンバータ」「制御システム」「運転プログラム」の製作

**実施概要**

受入開始前に今回のテーマに関する技術の習得など事前トレーニングを行い、その動画を協定校に共有。本番では3大学の学生が5つの国際混合チームを組み、MPPT制御を可能とする太陽光発電システムをハード・ソフト合わせて4日で作成することを目標にそれぞれの長所を發揮し積極的に取り組みました。各日の最後に英語での報告会を開催し、各チームはその日の進捗を報告しました。4日目に全チームが太陽光発電システムで発電を行い、その性能の評価を行いました。



実験室での協働活動の様子

工学部・電子情報システム工学科



さくらサイエンス受入プログラム

工学部・電気電子システム工学科

**参加大学** 国立台北科技大学（台湾）  
タマサート大学シリントーン国際工学科（タイ）  
同济大学（中国）

**開催期間** 2025年9月2日～9月11日（10日間）

**参加学生** 国立台北科技大学 12人  
タマサート大学シリントーン国際工学科 6人  
同济大学 6人、本学 16人

**テーマ** インテリジェントロボットチャレンジ

**実施概要**

今年度は4カ国計40名の参加となりました。参加学生は6チームに分かれ制御プログラミングと車体の製作に挑戦しました。最終日に各チームは完成した自立走行型車体を披露し、用意されたフィールド上で相手チームの車体より早くかつ正確に紙風船を割ることを目標とする競技会に参加しました。参加学生からは「海外の学生とプロジェクトを行うことはいい経験になった」「海外の学生と関わる中で自身の勉強のモチベーションも上がった」などの感想が寄せられました。



競技会の様子

工学部・応用化学科



受入プログラム

**参加大学** 国立台湾科技大学（台湾）

**開催期間** 2025年7月21日～7月27日（7日間）

**参加学生** 国立台湾科技大学 14人  
本学 11人

**テーマ** 化学分野におけるケーススタディープロジェクト

**実施概要**

「持続可能なエネルギー・物質循環の確立における化学の役割」を共通テーマに、チームに分かれ、課題解決に挑戦しました。まず、関連分野のレクチャー2件や実験体験2件、さらに施設見学を実施し、専門的知識と実践的な視点を得ました。その後、学生たちは夜遅くまで議論を重ね、最終日には「SDGs達成を阻む問題」「その解決に向けた化学の役割」「自分たちの独自アイデア」について英語で発表しました。教員との質疑応答も活発に行われ、プログラムの理解を一層深めました。



歓迎会での記念撮影

## 工学部・応用化学科



## 派遣プログラム

**派遣先** 国立台湾科技大学（台湾）

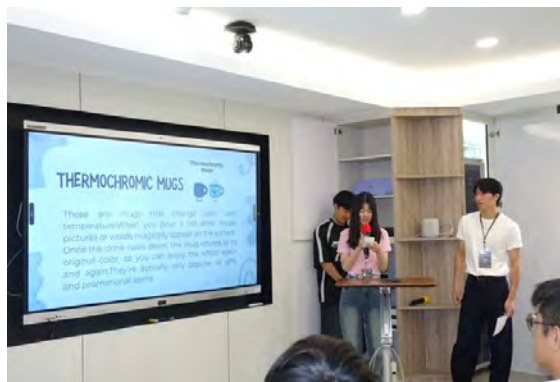
**開催期間** 2025年8月7日～8月12日（6日間）

**参加学生** 本学 14人、国立台湾科技大学 19人、ウイドヤ・マングラ・カトリック大学スラバヤ、セプルーノペンバー工科大学、ガジャマダ大学（すべてインドネシア） 6人

**テーマ** 化学工学分野におけるケーススタディープロジェクト

### 実施概要

「科学技術を利用して持続可能な開発や社会課題を解決するには」を共通テーマに、国際混成10チームが課題解決に挑みました。事前に台湾科技大学教員による2件の講演を受講し、先端研究を学んだ上で議論を重ね、最終日に各チームが英語で5分間の成果発表を行いました。教員が発表内容を評価し、改善点や今後の課題をフィードバックしました。参加者からは「英語で専門議論でき刺激になった」「異文化交流が学びの姿勢を見直す契機になった」との声がありました。



グループ発表の様子

## 工学部・環境工学科



## 派遣プログラム

**派遣先** パランカラヤ大学（インドネシア）

**開催期間** 2026年2月22日～2月28日（7日間）

**参加学生** 本学 7人（うち2人はTA）  
パランカラヤ大学 6人

**テーマ** インドネシア共和国中央カリマンタン州パランカラヤ周辺の熱帯泥炭湿地林における環境・生物資源調査

### 実施概要

両大学の混成2チームに分かれ、現地調査、分析、討議、最終発表までを一貫して行いました。テーマは、A班が「GISと人工衛星画像を活用した泥炭地火災のモニタリングと発火危険度の評価」、B班が「次世代バイオ燃料に資するオイル産生藻類の生物資源探査」。学生たちは、熱帯泥炭湿地林や周辺水域でのフィールドワーク、採水・観察、データ整理を通じて、環境工学分野の実課題に向き合いました。現地では、保護林での調査や河川・ため池でのサンプリング、大学施設での顕微鏡観察など、実地に根差した学習を展開しました。



パランカラヤ大学での修了式

## 工学部・生命工学科



## 派遣・受入プログラム

**参加大学** 大同大学（台湾）

**開催期間** [派遣]2025年8月3日～8月9日（7日間）  
[受入]2025年8月17日～8月23日（7日間）

**参加学生** 本学 15人  
大同大学 15人

**テーマ** 生命工学分野の国際ジョイントプログラム

### 実施概要

大同大学と本学を行き来する形でプログラムを行いました。両大学の参加学生はそれぞれホスト校の教授によって設定された複数のテーマを選択し、ホスト校のサポートのもとで計画を立てて実験を進めていきました。実験結果を英語で発表し、発表会にはホスト校の教授も多数参加しディスカッションを行いました。また、ホスト側の学生が文化体験ツアーを企画し、相手校の学生に自国の文化を知ってもらう機会を提供しました。参加学生からは「派遣と受入を通じてより交流関係を深めることができた」「日本の魅力を再発見することができた」などの感想が寄せられました。



実験中の様子

## ロボティクス&デザイン工学部



## 受入プログラム

**参加大学** 国立雲林科技大学（台湾）

**開催期間** 2025年8月4日～8月10日（7日間）

**参加学生** 国立雲林科技大学 11人  
本学 10人

**テーマ** デザイン思考に基づく高齢者のためのデザイン

### 実施概要

学生自身がデザイン思考を理解して国際チーム内での協働により課題をクリアすることを目的に、本学学生2名と雲林学生2名で1チームを構成。5チームがそれぞれ「手すりつき家具の提案」「多機能杖の提案」「老人向けコミュニケーションツールの提案」「老人の入浴時の転倒への提案」「老人の正しい薬服用の提案」を行いました。ワークショップだけでなく、英語によるプレゼンテーションや地域交流、日本の文化紹介、医療機器や福祉ロボット企業の施設見学も行い、学生たちにとって貴重な国際交流の機会を提供できました。



開会式での記念撮影

梅田キャンパスイノベーションデザイン教育研究センター

## ロボティクス&デザイン工学部



## 派遣プログラム

**派遣先** タマサート大学シリントーン国際工学部（タイ）

**開催期間** 2025年8月24日～8月30日（7日間）

**参加学生** 本学 8人  
タマサート大学シリントーン国際工学部 10人

**テーマ** レスキューロボット技術の理解と実装

### 実施概要

ロボット工学科6名とシステムデザイン工学科2名、SIITから10名が参加し、4つの国際混成チームでミニチュアの建造物内部を探索し救助活動を行うロボットを共同製作しました。遠隔操作ロボットで災害現場を探索し、建物構造の把握や被災者の発見・救助を行う課題に取り組み、毎日英語で成果を共有しながら協働を深めました。最終日は競技会形式で救助活動を実演し、採点で順位を決定、表彰と修了証授与で締めくくりました。アンケート結果は高評価で、実践的な国際協働力の向上につながる機会となりました。



ランシットキャンパス AI Labにて

## 空間デザイン学科



## 受入プログラム

**参加大学** HAWK 応用科学芸術大学（ドイツ）

**開催期間** 2025年5月29日～6月4日（7日間）

**参加学生** HAWK 応用科学芸術大学 16人  
本学 20人

**テーマ** OIT×HAWK 空間デザインプロジェクト2025（未来へつなぐ現代の茶室）

### 実施概要

参加者は2025年1月から事前学習やオンラインでの意見交換を重ね、5月29日には奈良県大和郡山市の慈光院で茶室や茶道、禅の哲学を学びました。翌日からは梅田キャンパスで3チームに分かれ、和紙の壁で都市との調和を表した案、障子から着想して境界を空間化した案、参加者の言葉を紐に挟み込む仕掛けを取り入れた案など、現代の茶室を制作しました。6月1日には完成作品で茶会を開き、解説パネルとともに展示も行いました。最終日には大阪・関西万博を見学し、空間と文化の関係について議論を深めました。



完成した3作品で茶会を開催

## 情報科学部



## 派遣プログラム

派遣先 泰日工業大学 (タイ)

開催期間 2025年8月31日～9月7日 (8日間)

参加学生 本学 10人  
泰日工業大学 10人

テーマ 情報科学を用いて社会課題の解決方法の提案

### 実施概要

泰日工業大学 (TNI) との国際 PBL は今回で 4 回目。情報科学部の学生 10 名と TNI 経営学部学生 10 名で 5 つの国際混成チームを編成。事前学習を経て、現地では朝 8:30 頃から講義とワークショップを実施し、「タイ文化と日本文化の違いを踏まえ、両者を融合した商品開発」に Design Thinking で挑戦しました。キャンパスツアーや文化体験、アユタヤのリサイクル企業見学、エクスカッション等も交え、最終日に成果発表・質疑を実施。英語での協働を通じて実践的な国際力を伸ばす機会となりました。



グループワークの様子

## 情報科学部



## 派遣プログラム

派遣先 タマサート大学シリントーン国際工学部 (タイ)

開催期間 2025年9月7日～9月17日 (8日間)

参加学生 本学 12人 (うち2人はTA)  
タマサート大学シリントーン国際工学部 13人

テーマ 画像認識プログラミングチャレンジ

### 実施概要

4 日間のワークショップ期間中、5 つの混成チームを編成し、Python と MediaPipe 等の機械学習ライブラリを用いて、日常の課題解決につながるアプリケーションを企画・実装しました。最終日の成果報告会には、姿勢評価「AlignMe」、手話学習を兼ねた脳トレ「Hand gestures brain training」、読唇「Lip Reader 9000」、転倒検出「Elderly fall detection」、運転リスク検知「iGuard」など、多様なアプリが並びました。最後は参加者・聴講者の投票で各賞を表彰し、短期間でも交流が深まり、アンケートでは 87% が今後の留学意欲を示しました。



プロジェクト風景

## 情報科学部



## 派遣プログラム

派遣先 韓国芸術総合学校 (韓国)

開催期間 2025年9月14日～9月18日 (5日間)

参加学生 本学 11人 (情報メディア学科4人、  
空間デザイン学科6人、TA1人)  
韓国芸術総合学校 (K-Arts) 10人

テーマ 都会に住むひとり暮らしの若者の食、洗濯、読書など日々の生活を快適にするコミュニティデザイン

### 実施概要

4 つの混成チームを組み、都市で暮らす単身者を支えるコミュニティデザインをテーマに協働。渡航前から英語スピーチ等で準備を重ね、現地ではタウンウォッチングやフォトジャーナルで地域課題を可視化しました。毎夕の進捗共有と中間発表で議論を深め、シェア空間、循環型生活、AI/IoT 活用アプリなどの提案を作成しました。最終発表会で成果を共有。短期間でしたが、国際的チームワークと創造的課題解決力を育む学びとなりました。



最終発表会の様子

## 情報科学部

## さくらサイエンス受入プログラム

**参加大学** ジガンシヨール大学 (セネガル)

**開催期間** 2025年9月7日～9月13日 (7日間)

**参加学生** ジガンシヨール大学 7人  
本学 7人

**テーマ** 画像処理を用いたドローン制御 Python プログラミングの問題解決型プロジェクト学習

### 実施概要

科学技術振興機構「さくらサイエンスプログラム」の採択を受け、セネガルのジガンシヨール大学から7名の学生と引率教員1名を招へいし、枚方キャンパス大規模実証実験施設 DX フィールドにおいて、情報科学部の学生7名と実施しました。実施内容は、画像処理を用いたドローン制御 Python プログラミングの問題解決型プロジェクト学習です。日本人学生とセネガル人学生が混合した4つのチームを編成し、グループワークでドローン制御のプログラミングを行いました。



枚方キャンパスのDXフィールドにて

## 国際交流センター

## 受入プログラム

**参加大学** マレーシアサインズ大学 (マレーシア)

**開催期間** 2025年9月6日～9月14日 (9日間)

**参加学生** マレーシアサインズ大学 15人  
本学 11人

**テーマ** Bridging Innovation and Sustainability: Advancing Alternative Proteins Through Global Collaboration

### 実施概要

代替タンパク質をテーマに国際PBLを実施しました。本学学生による日本の代替タンパク質の歴史と最新動向紹介、大学・企業・万博訪問、常翔学園高等学校でのワークショップ授業等を実施しました。参加者からは「高校でのワークショップ授業を通して代替タンパク質への認知を世界的に広げる一助となった」「文化や宗教の違いを尊重する姿勢が信頼関係につながった」との声がありました。



常翔学園高等学校でのワークショップ授業

## 国際交流センター

## さくらサイエンス受入プログラム

**参加大学** モンゴルコーセン技術カレッジ (モンゴル)

**開催期間** 2025年11月4日～11月9日 (6日間)

**参加学生** モンゴルコーセン技術カレッジ 7人  
本学 14人

**テーマ** 持続可能な社会実現に向けたスマートものづくり学習プログラム

### 実施概要

製造現場の課題をICTで解決することを目指す合同研修に取り組みました。初日のオリエンテーションで両国の文化や学びの環境に触れた後、生産現場のムダや工程バランスの改善策を議論しました。2日目はLEGOを使って組立演習を行い、作業の効率化を学びました。3日目はオムロン京都太陽を見学し、企業価値と共創社会の実現を追求する実例について学びました。4日目は模擬生産演習をグループごとに行い、作業時間の測定・分析を通じてデータに基づく現場改善の重要性を体感しました。



生産ライン演習を終えて



<b>参加大学</b>	国立台湾科技大学（台湾） セブルーノペンバー工科大学（インドネシア） ヴィドヤ・マンダラ・カトリック大学（同上） カントー大学（ベトナム）
<b>開催期間</b>	[台湾] 2025年6月8日～6月16日（9日間） [インドネシア] 2025年7月5日～7月19日（15日間） [ベトナム] 2025年8月12日～8月25日（14日間） [日本] 2025年7月27日～8月2日（7日間） 2025年9月26日～9月28日（3日間）

<b>参加学生</b>	
[台湾]	本学 2人、国立台湾科技大学 44人、
[インドネシア]	本学 1人、国立台湾科技大学 9人、 セブルーノペンバー工科大学(ITS) 10人
[ベトナム]	本学 1人、国立台湾科技大学 9人、 カントー大学 15人
[日本]	国立台湾科技大学 6人、本学 14人

<b>テーマ</b>	Engineers in Action (EiA)
[台湾]	Tribal Tourist Boardの製作
[インドネシア]	Green House Buildingの製作
[ベトナム]	Student Playground Buildingの製作
[日本]	地元素材を生かした環境に優しいものづくり

**実施概要**  
[台湾] 台湾北東部にある宜蘭（イーラン）の東澳國小（小学校）の近くにある蛇山歩道の修復・清掃活動を行いました。かなり暑い中での作業でしたが自然環境を整えることの大切さを実感しました。台湾の参加者や地域の方々と交流する中で、文化や言語の違いを超えて共通の目標に取り組む喜びを強く感じました。自然を守りたいという思いは国境を越えて共有できることに気づき、国際交流の大きな意義を学びました。

[インドネシア] グリーンハウスの中と周りを綺麗にして、唐辛子などの植物を育てます。現地の方と一緒に乾燥機の設置や、温室の修繕を行い植物が育つ環境づくりなど、環境にかかわる活動に従事しました。また、地元の小学校を訪れ、環境への配慮の重要性を伝えることを目的にワークショップを実施しました。意思疎通が難しいことも多々ありましたが、楽しく学べるよう企画し、遊びを通じて仲良くなり、たくさんの笑顔を見ることができました。

[ベトナム] 「Trường Tiểu Học Long Tuyên 2」という小学校で児童のための遊園場を作りました。ブランコ作りでは、タイヤに穴を開け、鎖を取り付け、鉄棒も溶接で固定を行いました。広場では、子供たちの休憩所となるベンチと日除ネットの取り付けを行いました。校庭の壁には素晴らしいアートが完成し、仕上げに皆んなで手形をスタンプしました。最終日はプロジェクトの閉会式が行われ、関係者の方々にも遊具を見てもらい、賞賛をいただきました。

[日本] 奈良県川上村源流分校の合宿で、日本チームは伝統製法によるこんにやくづくりの基礎を学んだ後、化学反応を応用したスイーツ開発を行いました。また川上村に自生する竹と草木染の特性を生かして発光色の異なる竹灯籠を制作し村に寄贈しました。台湾チームは大地震が起きた際の影響を遠隔診断できる「構造ヘルスマニタリングシステム」を仮設置。また吉野杉を加工し、太陽光発電LEDを組み合わせた夜間視認性の高い誘導板を校庭に設置しました。9月26日から28日に大阪・関西万博「フューチャーライフヴィレッジ」で成果展示を行い、3日間で624人の来場がありました。



[台湾] 小学校内で参加者全員と



[インドネシア] ITSのキャンパスにて



[ベトナム] 小学校の遊具をリノベーション



[日本] 大阪・関西万博共創チャレンジで未来の形を提案

# Step 3

## 4. IAESTE 海外インターンシップ派遣・受入 Overseas Internship

IAESTE（イアエステ）とは、The International Association for the Exchange of Students for Technical Experience の略称で理工農薬学系学生のための海外インターンシップを仲介している国際 NGO 団体です。世界 80 カ国の企業または大学・研究所がインターンシップを提供していて、期間は最短 8 週間～最長 52 週間で、派遣先から生活費が支給されます。本学では意欲ある学生にイアエステへの応募を奨励し、渡航支援を行っています。またイアエステを通じて、海外からインターンシップ生を学内の研究室に受け入れています。

2025 年度は、6 年ぶりに本学より 1 名を派遣しました。また 1 名を受け入れました。

	派遣	受入
所属	大阪工業大学 情報科学研究科 博士後期課程 1 年	ホーエンハイム大学（ドイツ） 環境生命研究科 博士前期課程 1 年
派遣/ 受入先	ロードアイランド大学(アメリカ) コンピューターサイエンス学科	大阪工業大学 工学部 環境工学科 水・資源循環工学研究室 (日下部 武敏 准教授)
期間	2026 年 1 月～5 月 (110 日)	2025 年 10 月～11 月 (61 日間)



EXPO2025 大阪・関西万博にて

### IAESTE インターンシップ生の派遣実績

年度	派遣先
2025	University of Rhode Island (アメリカ)
2019	Universidade Estadual Paulista (ブラジル)
2017	Manipal Institute of Technology (インド)
2016	University of Information Science and Technology "St. Paul the Apostle" (北マケドニア)
2014	Karunya University (インド)

### IAESTE インターンシップ生の受入実績

年度	所属大学
2025	University of Hohenheim (ドイツ)
2024	Rzeszow University of Technology (ポーランド)
2023	Purdue University (アメリカ)
2022	Poznan University of Technology (ポーランド)
2019	Sultan Qaboos University (オマーン)
	University of Chemistry and Technology (チェコ)
2018	Slovak University of Technology (スロバキア)
	Technical University of Hamburg (ドイツ)
2017	Gdansk University of Technology (ポーランド)
	Lodz University of Technology (ポーランド)
2016	Brno University of Technology (チェコ)
	Budapest University of Technology and Economy (ハンガリー)
2015	Kwame Nkrumah University of Science and Technology, KNUST (ガーナ)
	Tomas Bata University in Zlin (チェコ)
2014	Norwegian University of Science and Technology (ノルウェー)

# Step 4

## 5. 長期交換留学（派遣） Student Exchange Program (Outbound)

大阪工業大学の協定校で学生の交換条件を明記している大学、および本学が加盟している UMAP（アジア太平洋大学交流機構, University Mobility in Asia and the Pacific）の大学において、在学中に最長1年間、学費負担なしで留学するプログラムです。専門科目の授業履修や研究インターンシップを主とするため Step4 に分類していますが、語学を目的とした留学も可能です。2025年度は、ドイツ2人、韓国2人を派遣しました。また、フランス、ドイツ、フィリピン、マレーシア、韓国から6人が帰国しました。

### 長期交換留学の派遣実績（2022～2025年度）

年度	国/地域	機関	目的	所属（開始時）	期間
2025	ドイツ	HAWK 応用科学芸術大学	授業履修	W 科 3 年	2026 年 3 月～2027 年 3 月 [約 12 カ月間] 予定
	ドイツ	HAWK 応用科学芸術大学	授業履修・研究	RD 研究科 W コース 2 年	2026 年 3 月～2027 年 1 月 [約 10 カ月間] 予定
	韓国	大田大学校	語学学習（韓国語） 後半は授業履修も	W 科 3 年 (2 人)	2026 年 3 月～2027 年 1 月 [約 11 カ月間] 予定
2024	マレーシア	マレーシアサイエンス大 学	授業履修	V 科 2 年	2025 年 3 月～2026 年 2 月 [約 12 カ月間]
	ドイツ	HAWK 応用科学芸術大学	授業履修・研究	RD 研究科 W コース 1 年	2025 年 3 月～2025 年 8 月 [約 5 カ月間]
	韓国	大田大学校	語学学習（韓国語） 後半は授業履修も	P 科 2 年	2025 年 3 月～2026 年 1 月 [約 11 カ月間]
	フィリピン	サンホセレコレトス大 学	語学学習（英語）	P 院 1 年	2025 年 2 月～2025 年 8 月 [約 7 カ月間]
	フランス	ボルドー大学	授業履修	IC 科 3 年	2025 年 1 月～2025 年 7 月 [約 6 カ月間]
	フランス	ボルドー大学	授業履修	IC 科 3 年	2024 年 8 月～2025 年 7 月 [約 11 カ月間]
2023	韓国	大田大学校	語学学習（韓国語） 後半は授業履修も	S 科 2 年 W 科 2 年	2024 年 3 月～2025 年 1 月 [約 11 カ月間]
	フィリピン	サンホセレコレトス大 学	語学学習（英語） 後半は授業履修も	P 院 1 年	2024 年 3 月～2024 年 9 月 2024 年 11 月～2025 年 2 月 [計 11 カ月間]
	台湾	国立台北科技大学	授業履修	P 院 1 年 (2 人)	2024 年 2 月～2025 年 2 月 [約 12 カ月間]
2022	アメリカ	アンジェロ州立大学	語学学校・授業履修	IC 科 3 年	2022 年 8 月～2023 年 6 月 [約 10 カ月間]

※学部・学科記号について

RD：ロボティクス&デザイン工学、S：システムデザイン工学、W：空間デザイン、P：知的財産、IC：情報知能、V：環境工学

### 長期交換留学 参加学生の報告

#### ボルドー大学

2025年1月～2025年7月 [約6カ月間]

フランスにあるボルドー大学へ2025年1月～7月まで留学していました。授業は、主にAIについての授業を受けました。フランスでの授業の様子が知れるいい機会でした。また、留学生が多い大学ということもあり、留学生歓迎のイベントが多くありました。ボルドー周辺の観光地を参加者全員乗った高速バスで移動しながら観光をするイベントに何度も参加することで、様々な国からの留学生と関わる機会ができてとてもいい経験になりました。ワインやカヌレなど有名な地域で、食文化の違いも楽しめて、とてもいい留学体験ができました。

[情報科学部情報知能学科 3年]



観光イベントの帰りのバス車内



## HAWK 応用科学芸術大学

2025年3月～2025年8月 [約5カ月間]

ドイツのホーク応用科学芸術大学（HAWK）に、2025年3月下旬から8月までの約5か月間、交換留学しました。主に建築・空間デザインのスタジオ科目を履修し、多国籍の学生とともに設計課題に取り組みました。授業では学生が積極的に発言し、教授に対しても率直に意見を述べる姿勢が印象的でした。英語で自分の考えを伝えることに最初は不安を感じましたが、模型やスケッチなど言葉以外の方法も活用しながら議論に参加することで、次第に自分らしく意見を共有できるようになりました。また、異なる文化的背景を持つ学生との協働を通して、自分にとって当たり前だった日本的な感性や価値観が個性として受け取られる経験をしました。多様な視点に触れる中で、自分自身を客観的に見つめ直す機会となり、視野を広げることができました。留学生活では主体的に行動することの大切さを実感し、新しい環境に飛び込む勇気と柔軟に適応する力を身につけることができたと感じています。

[ロボティクス&デザイン工学研究科博士前期課程 1年]



校外学習でBAUHAUSの見学へ行った時の写真



## サンホセレコトス大学

2025年2月～2025年8月 [約7カ月間]

フィリピンでの交換留学プログラムでは、英語力の向上を目的として参加しました。日々授業に取り組む中で、英語力だけでなく、自己主張やプレゼンテーション能力も向上したと感じています。日本人がいない環境で過ごした半年間は、寂しさを感じることもありましたが、現地の人々の温かさや優しさに支えられ、充実した日々を送ることができました。また、学外でも多くの友人ができ、日本以外の文化や価値観に触れることで、自分の考え方の幅が大きく広がりました。この留学中に会ったたくさんの友人は、私の人生における宝物です。今回の経験は、今後の人生においてかけがえのない貴重な財産となりました。

[知的財産研究科 2年]



大学内で行われたパーティイベントに参加して



## マレーシアサインズ大学

2025年3月～2026年2月 [約12カ月間]

留学生活は楽しいことばかりではなく、悩んだり難しさを感じたりする場面もありました。しかし、そうした一つひとつの経験が、自分を大きく成長させてくれたと感じています。マレーシアサインズ大学で現地学生とともに学び、多様な価値観や文化に触れた1年間を通して、英語力だけでなく、視野の広がりや新しい環境に飛び込む行動力、柔軟に適応する力も身につきました。

コンフォートゾーンを一步出したこの経験は、これからの自分にとって大きな財産です。

[工学部環境工学科 2年]



国際色豊かな仲間たち



## 大田大学校

2025年3月～2026年1月 [約11カ月間]

大田大学校文化体験プログラム（夏期：約3週間）に参加後、もっと専門的な韓国語を学びステップアップをしたいと思い、1年間の長期交換留学に挑戦しました。前期は韓国語教育センターでレベル別に実力を磨き、後期では自身の専攻に近い科目の授業履修に挑戦しました。実際に韓国で生活したことで、旅行では経験できない生活の知恵や韓国語習得のテクニックについて学ぶ機会が多くありました。帰国前には、電話での問い合わせや、店頭での注文の際も意思の疎通がしっかりとれることを実感し、自信を持つことができました。自力で調べ、行動する度胸が身についたので今後の自身の就職活動の際に活かします。

[知的財産学部知的財産学科 2年]



体育大会にて

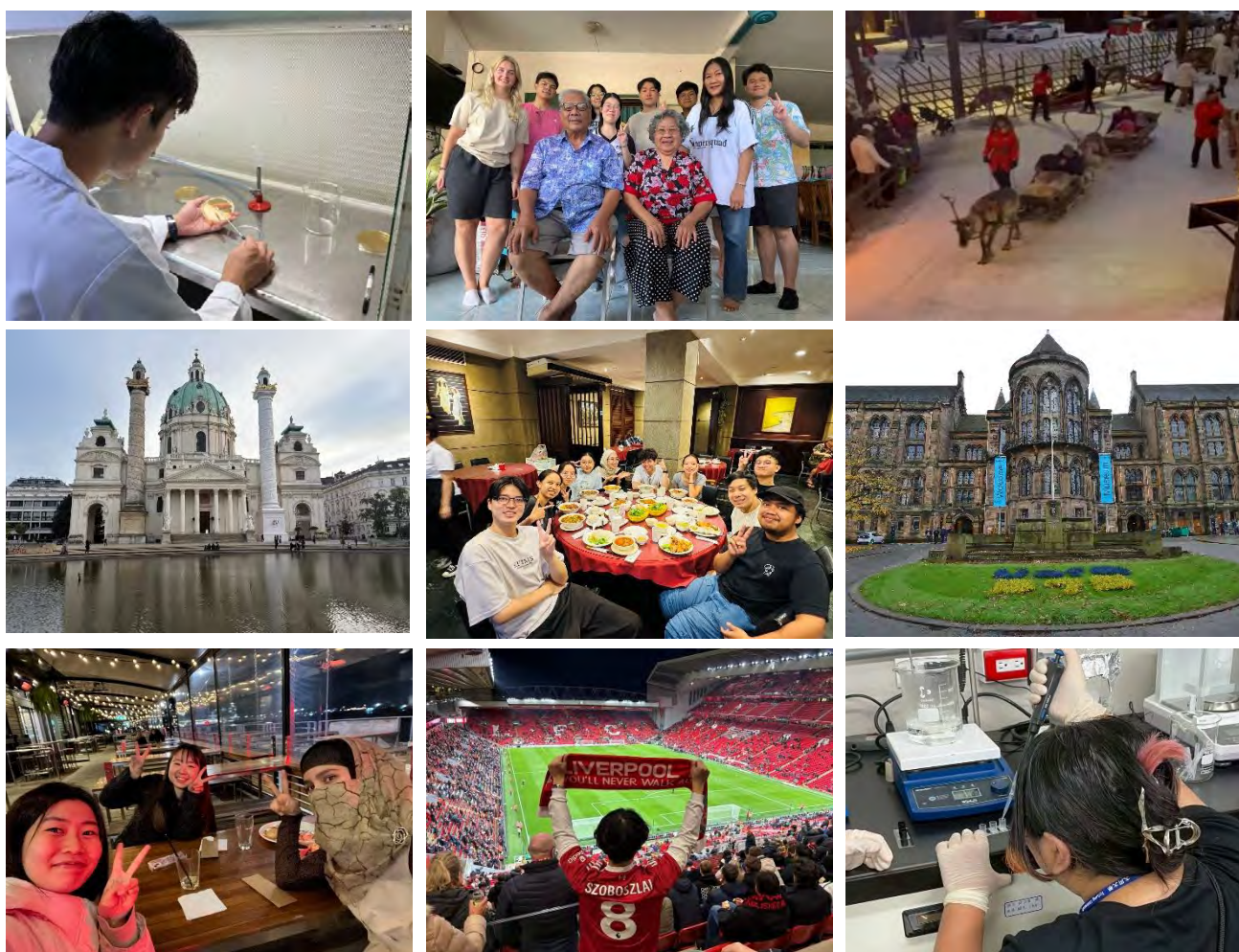
## Step 4

### 5. 海外研究支援プログラム Overseas Research Experience Program

本学大学院生および大学院に進学が決定している学部生を対象とし、海外の大学や研究機関等で1か月以上の研究や実務の体験を行う学生に対し、必要経費の一定範囲を大学が支援しています。派遣先での活動は、卒業研究・修士論文研究との接続などの観点から評価され、大学での教育内容との連続性が重視されます。また、一定の条件を満たした学生は日本学生支援機構海外留学支援制度による経済支援を受けることができます。

2025年度は、アメリカ、オーストラリア、フランス、台湾など9か国に11人の学生を派遣しました。以下URLからこれまでの派遣実績を見ることができます。ぜひそちらも参照ください。

<https://www.oit.ac.jp/japanese/international/program-graduate.html>





写真：海外研究支援プログラム参加者提供

## 2025年度 海外研究支援プログラム派遣者リスト

	留学先 (国・地域名)	所 属	研究テーマ	派遣期間
1	ニューカッスル大学 (オーストラリア)	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 博士前期課程 応用化学コース1年	板状粒子安定化多面体リキッドマー ブルの作製	2025/7/29～ 2025/10/29 93日間
2	大同大学 (台湾)	工学部 生命工学科4年	遺伝子・薬物デリバリー技術の開発 と疾患分子メカニズムの解明	2025/8/1～ 2026/1/17 170日間
3	タマサート大学 シリントーン国際工 学部 (タイ)	情報科学研究科 情報科学専攻 博士前期課程1年	意図的なリポジトリ障害の導入とチ ーム活動による検出・報告・修復を 生成AIによって支援するGit学習 支援システムの試作と検討	2025/8/5～ 2025/11/30 118日間
4	パリ建築大学 (フランス)	工学研究科 建築・都市デザイン工学専攻 博士前期課程 都市デザインコース1年	建築と景観の関係性における調和の 構築	2025/8/25～ 2026/1/5 134日間
5	グラスゴー大学 (イギリス)	工学研究科 電気電子・機械工学専攻 博士前期課程 機械工学コース1年	低圧環境下における流体インジェク ター角度および質量流量比が衝突噴 流に及ぼす影響	2025/8/30～ 2025/11/29 92日間
6	国立台湾科技大学 (台湾)	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 博士前期課程 応用化学コース1年	水溶性クマリン誘導体の光二量化反 応の追跡と光物性評価	2025/9/8～ 2025/11/12 66日間
7	サラマンカ大学 (スペイン)	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 博士前期課程 応用化学コース1年	キラル固定相に用いる分子のスクリ ーニング方法	2025/9/15～ 2025/10/25 41日間
8	サラマンカ大学 (スペイン)	工学部研究科 建築・都市デザイン工学専攻 博士前期課程 都市デザインコース2年	ファサード分類のための写真測量	2025/10/12～ 2025/12/7 57日間
9	ウィーン工科大学 (オーストリア)	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 博士前期課程 応用化学コース1年	外部刺激応答性ロタキサンの分子シ ャトル挙動の解析	2025/10/12～ 2025/12/19 69日間
10	ユヴァスキュラ大学 (フィンランド)	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 博士前期課程 応用化学コース1年	新規大環状化合物の合成方法の開発	2025/10/15～ 2025/12/24 71日間
11	ネバダ大学リノ校 (アメリカ)	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 博士前期課程 生命工学コース1年	膵臓がんにおける小胞体関連分解の 阻害効果について	2025/12/7～ 2026/1/25 50日間

# 学部・学科等の独自プログラム

これまで紹介したプログラムの他にも、学部や学科単位などで独自に実施した国際交流プログラムがあります。すべてを紹介することはできませんが、主なものをこちらで紹介します。

<b>工学部・建築学科</b>	 <b>派遣プログラム</b>
<b>海外都市・建築視察研修</b>	
<b>派遣先</b> アムステルダム（オランダ）、パリ（フランス）、バルセロナ（スペイン）	
<b>開催期間</b> 2025年9月3日～9月12日（10日間）	
<b>参加学生</b> 建築学科 43人（大学院2年：3人、4年：3人、3年：9人、2年：28人）	
<b>実施概要</b> オランダでは主に現代建築、パリでは街区やファサードがつくる都市景観およびコルビジエのサヴォア邸などの近代建築、バルセロナではガウディ作品から近・現代建築までを見学し、写真記録を行いました。各学生は担当建築を事前に調査し、写真や図面で発表した上で、建築の構成とディテールを現地で確認し、空間と形態の理解を深めました。帰国後は写真記録を整理してレポートとしてまとめました。	
オランダ・ロッテルダムの Depot Boijmans Van Beuningen	

<b>空間デザイン学科</b>	 <b>派遣プログラム</b>
<b>海外研修 2025：ドイツ・バウハウス3都市</b>	
<b>派遣先</b> フランクフルト、ワイマール、デッサウ、ベルリン（ドイツ）	
<b>開催期間</b> 2025年9月8日～9月17日（10日間）	
<b>参加学生</b> 空間デザイン学科 10人（学部2年生～院1年生）	
<b>実施概要</b> 近現代デザイン史において重要な役割を果たした造形学校「バウハウス」に焦点を当て、拠点となったワイマール、デッサウ、ベルリンの3都市を巡りました。各都市の歴史的・地勢的な相違を体験することで、デザインや建築の歴史と現在のものづくり活動の在り方を確認しました。特にデッサウでは、バウハウス校舎およびマイスターハウスを英語ガイドツアーで、バウハウス建築群をバスで巡りました。またベルリンではバウハウス関連以外にも、ユダヤ博物館、DDR（東ドイツ博物館）、モノミュージアムなども見学しました。	
バウハウス・デッサウ校舎の前での記念撮影	

<b>知的財産研究科</b>	 <b>派遣プログラム</b>
<b>台湾春期集中講義</b>	
<b>派遣先</b> 国立高雄科技大学、国立台北科技大学、台湾企業、台北市内の裁判所および台湾弁理士会	
<b>開催期間</b> 2026年3月15日～3月21日（7日間）	
<b>参加学生</b> 知的財産研究科院生6人、学部生3人	
<b>実施概要</b> 経済的な結びつきが強まっている台湾に大学院生と大学院進学する学部生を派遣し、高雄科技大学科技法律研究所と台北科技大学智慧財産研究所が主催する春期集中講義を受講し、さらに集中講義の一環として、台湾の半導体企業や裁判所（台湾司法院）、台湾弁理士会の訪問調査を通じて、知的財産分野における国際交流についての貴重な経験を得ました。	
高雄科技大学科技法律研究所における集中講義	

**夏期集中講義「Intellectual Property Studies (Summer Intensive)」**

**参加大学** 国立高雄科技大学、国立台北科技大学、  
国立雲林科技大学、国立台湾科技大学（すべて台湾）

**開催期間** 2025年8月25日～8月30日（6日間）

**参加学生** 台湾学生 23人（本学学生 16人）

**実施概要**

学生間の国際交流を図るために、大宮キャンパスに台湾の4大学の学生23名を招聘し、20年後の未来に向けた知的財産制度の在り方を討論しました。米国弁護士、USJ JAPANの知的財産責任者からも知的財産の活用についての講義を受けるとともにダイキン、シャープへの訪問も実施し、参加者から実践的なプログラムであるとの評価を受けました。



夏期集中講義における講義

**学生課****派遣プログラム****Bridgestone World Solar Challenge2025  
(チャレンジャークラス)**

**参加大学等** 東海大学、工学院大学、和歌山大学など、  
国内外から約30チーム

**派遣期間** 2025年7月25日～9月7日（45日間）

**大会期間** 2025年8月18日～31日（14日間）

**参加学生** 本学 15人

**実施概要**

学生プロジェクトのひとつである「ソーラーカープロジェクト」の学生メンバーがオーストラリアで開催された『ブリヂストン・ワールドソーラーチャレンジ』に初出場し完走しました。大会は太陽光を動力源として、約5日間をかけてダーウィンからアデレードまでの約3,000kmを走破する世界最高峰のソーラーカーレースです。ソーラーカー開発には空気力学、電気工学、電子工学など様々な科学分野の知識が必要とされるため、分野を超えたエンジニア育成の場として注目を集めています。また、レース参戦にあたっては学生自身が車体の設計・製作だけでなく資金調達からチームマネジメントまでこなし、参加した学生自身にとって大きな学びと成長の機会となりました。



ゴール会場のVictoria Squareで祝福を受けるメンバーとマシン

# キャンパスでの国際交流

## 交換留学生受入 Student Exchange Program (Inbound)

本学では、交流協定を締結している海外の大学および UMAP (アジア太平洋大学交流機構、University Mobility in Asia and the Pacific) の加盟大学からの学生を、最長 1 年間、学費負担なしで受け入れています。交換留学生の受入は、本学学生にとって海外学生との交流を通じて将来グローバルに活動していく上で有益な経験を得られる場となります。

2025 年度は海外協定校 19 大学から 35 人の交換留学生を受け入れ、指導教員の研究室に所属する延べ 240 人の学生が協力学生として交換留学生と交流しました。

### 2025 年度 交換留学生受入実績

	協定校名 (国・地域名)	目的	受入学科/研究科 (人数)	期 間
1	国立清華大学	研究	情報科学研究科[情報メディア]	2025. 04. 01～2025. 08. 31
2	南台科技大学	授業履修&研究	ロボティクス&デザイン工学専攻[空間デザイン]	2025. 04. 01～2026. 02. 28
3	ウィーン工科大学	研究室受入	情報科学研究科[情報メディア]	2025. 04. 01～2026. 03. 27
5	HAWK 応用科学芸術大学	授業履修&研究	空間デザイン学科 (2 人)	202504. 01～2025. 08. 31
6	ENIPE	研究	工学研究科[都市デザイン工学]	2025. 04. 14～2025. 08. 22
8	マヒドン大学	研究	実世界情報学科 (2 人)	2025. 05. 19～2025. 08. 11
11	ポリテクモンペリエ	研究	情報科学研究科 (3 人)	2025. 06. 09～2025. 08. 29
13	HAWK 応用科学芸術大学	研究	建築学科 (2 人)	2025. 09. 08～2026. 03. 30
14	マドリード工科大学	研究	空間デザイン学科	2025. 09. 08～2026. 02. 08
16	パリ・ヴァル・ドゥ・セーヌ国立高等建築学校	授業履修	ロボティクス&デザイン工学専攻[空間デザイン] (2 人)	2025. 09. 08～2026. 08. 31
17	タンペレ大学	研究	情報知能学科	2025. 09. 08～2026. 02. 08
18	タンペレ大学	研究	情報システム学科	2025. 09. 08～2026. 03. 31
19	国立雲林科技大学	授業履修	情報システム学科	2025. 09. 03～2026. 08. 31
20	世新大学	授業履修	知的財産学科	2025. 09. 03～2026. 08. 31
21	国立清華大学	授業履修	知的財産学科	2025. 09. 03～2026. 08. 31
22	国立清華大学	授業履修&研究	電子情報システム学科	2025. 09. 03～2026. 02. 28
24	南台科技大学	授業履修&研究	ロボティクス&デザイン工学専攻[空間デザイン] (2 人)	2025. 09. 03～2026. 08. 31
25	VISEC	研究	工学研究科[応用化学]	2025. 10. 01～2026. 09. 30
26	チュラロンコン大学	研究	工学研究科[応用化学]	2025. 08. 20～2025. 12. 08
28	カチョン大学	研究	実世界情報学科 (2 人)	2025. 12. 23～2026. 02. 09
29	マニパル工科大学	研究	情報メディア学科	2025. 12. 08～2026. 01. 26
31	ウイドヤ・マンダラ・カトリック大学スラバヤ	研究	応用化学科	2026. 01. 05～2026. 02. 05
31	ウィーン工科大学	研究	工学研究科[環境工学]	2026. 03. 02～2026. 08. 31
33	トリノ工科大学	研究	工学研究科[電子情報] (2 人)	2026. 03. 02～2026. 08. 31
35	サンホセレコレトス大学	研究	電気電子システム工学科 (2 人)	2026. 03. 01～2026. 03. 31

## 留学生との交流 International Exchange on Campus

### 国際友好部

課外活動団体の国際友好部は、国際交流を通じてグローバル人材になることを目標とし、交換留学生のサポートや交流イベントを企画・運営しています。交換留学生歓迎迎会や、季節ごとのイベントや校外研修も実施しています。



### 2025 年度の実施イベント

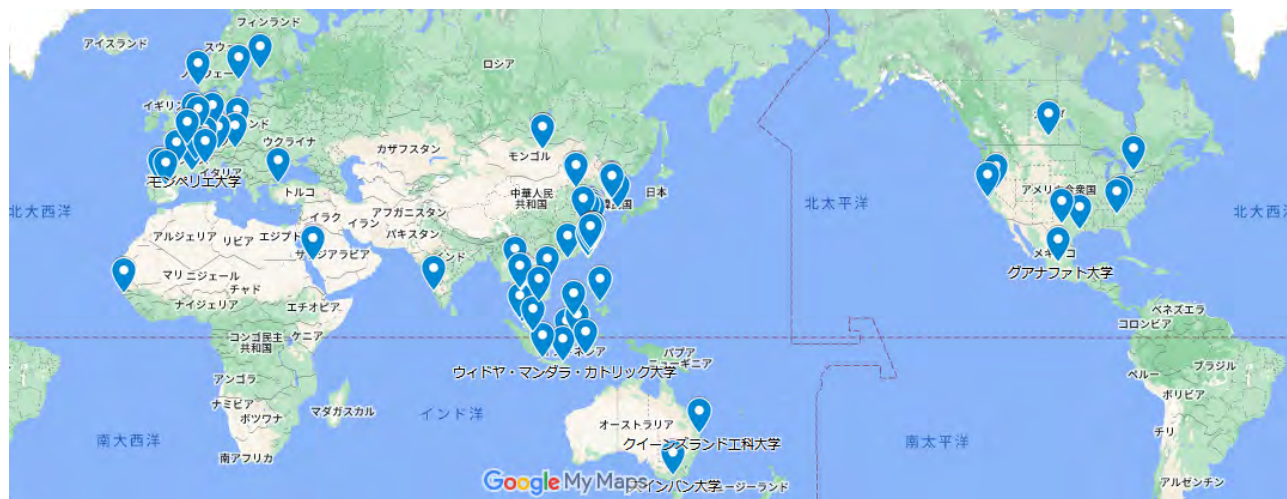
実施日	イベント交流等	場 所	参加人数
4月18日	交換留学生歓迎会 クイズ大会	大宮キャンパス Chast	本学学生：19人 交換留学生：6人
9月19日	交換留学生歓迎会 コミュニケーションゲーム	大宮キャンパス Chast	本学学生：14人 交換留学生：14人
11月16日	たこ焼き交流会	なんば駅周辺	本学学生：9人 交換留学生：10人
12月11日	クリスマスイベント	大宮キャンパス Chast	本学学生：18人 交換留学生：10人

参加留学生の出身国：

ドイツ、フランス、スペイン、オーストリア、フィンランド、インド、インドネシア、タイ、フィリピン、台湾など

## 大阪工業大学 海外交流協定締結機関一覧

本学では 2026 年 3 月末までに世界の 29 か国 91 機関と交流協定を締結しています。



### アジア

国・地域	交流大学等	英文表記	締結年月	協定の概要
中国	同济大学	Tongji University	1992 年 11 月 2010 年 2 月	学術交流および友好協力関係に関する覚書 学生交流に関する覚書
	清華大学	Tsinghua University	1993 年 12 月	科学技術と教育における交流促進に関する覚書
	浙江省寧波市国際人材交流協会	Ningbo, China	2008 年 9 月	環境問題を中心とした改善に関する協定
	華東理工大学	East China University of Science and Technology	2017 年 3 月 2022 年 6 月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	浙江大学	Zhejiang University	2016 年 5 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 (工学部)
	北京科技大学	University of Science and Technology Beijing	2020 年 1 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	香港伍倫貢學院	UOW College Hong Kong	2023 年 3 月 2023 年 3 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定 (本学は情報科学部に限定)
	南京工業大学	Nanjing Tech University	2023 年 11 月 2023 年 11 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定
韓国	大田大学校	Daejeon University	1994 年 7 月 2014 年 3 月	科学技術と教育における交流促進に関する覚書 学生交流に関する協議書
	国民大学校	Kookmin University	2017 年 1 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	仁濟大学校	Inje University	2017 年 1 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	中央大学校	Chung-Ang University	2022 年 12 月	教育、研究、およびその他の活動の分野での学術的および文化的交流を発展に関する覚書 (工学部)
	嘉泉大学校	Gachon University	2024 年 8 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 (情報科学部)
	漢陽大学校 ERICA	Hanyang University ERICA	2025 年 5 月 2025 年 5 月	教育研究における交流協力による学問の発展促進に関する覚書 学生交換に関する付則
台湾	国立虎尾科技大学	National Formosa University	2007 年 1 月	学術文化交流および友好協力関係に関する覚書
	国立雲林科技大学	National Yunlin University of Science and Technology	2007 年 2 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
			2025 年 2 月更新	
			2020 年 2 月 2025 年 2 月更新	学生交換の促進に関する協定
	世新大学	Shih Hsin University	2009 年 3 月	学術文化交流および友好協力関係に関する覚書
	国立高雄科技大学	National Kaohsiung University of Science and Technology	2009 年 6 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
			2019 年 3 月更新	
	国立台北科技大学	National Taipei University of Technology	2012 年 3 月	連携と学術交流に関する覚書
			2017 年 3 月	学生交換に関する協定
	国立台湾科技大学	National Taiwan University of Science and Technology	2013 年 10 月	教育と研究における連携と学術交流の発展に関する覚書
			2014 年 9 月	教育と研究における連携と学術交流の発展に関する覚書
	国立清華大学	National Tsing Hua University	2014 年 9 月	教育と研究における連携と学術交流の発展に関する覚書
			2014 年 9 月	学生交換の促進に関する協定
	南台科技大学	Southern Taiwan University of Science and Technology	2016 年 1 月	教育と研究における連携と学術交流の発展に関する覚書
2016 年 1 月			学生交換の促進に関する協定	
大同大学	Tatung University	2016 年 9 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書	
		2019 年 1 月	学生交換の促進に関する協定	
台湾經濟部	The Ministry of Economic Affairs, Taiwan (MOEA)	2020 年 2 月	就職支援に関する覚書	
国立中興大学	National Chung Hsing University	2020 年 9 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書	
		2020 年 9 月	学生交換の促進に関する協定	
国立陽明交通大学	National Yang Ming Chiao Tung University	2023 年 2 月	教育、研究、専門的活動に関する両大学の国際理解と協力関係の促進に関する覚書	

国	交流大学等	英文表記	締結年月	協定の概要
モンゴル	モンゴル工業技術大学	Institute of Engineering and Technology	2019年12月 2023年2月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	モンゴルコーセン技術カレッジ	Mongol Koosen College of Technology	2023年2月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
フィリピン	サンホセレコレトス大学	University of San Jose-Recoletos	2020年1月 2022年11月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
			2022年11月	学生交換の促進に関する協定書（ESLとコンピューター分野対象）
インドネシア	バラカラヤ大学	University of Palangka Raya	2015年5月	教育と研究における連携と学術交流の発展に関する覚書
	ウィドヤ・マンダラ・カトリック大学スラバヤ	Widya Mandala Catholic University Surabaya	2017年4月 2022年6月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	ムラワルマン大学	Mulawarman University	2018年1月 2023年1月延長	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	バクリ大学	Bakrie University	2018年4月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	ハサヌディン大学	Hasanuddin University	2020年10月 2020年10月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定
	セプルーノペンパー工科大学	Sepuluh Nopember Institute of Technology	2025年11月 2025年11月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定
	マレーシア	マレーシア工科大学	Universiti Teknologi Malaysia	2013年5月 2019年9月更新
	ペトロナス工科大学	Universiti Teknologi PETRONAS	2019年7月 2019年7月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定
	マレーシアサイエンス大学	University of Science Malaysia	2023年6月 2025年6月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
シンガポール	シンガポール工科大デザイン大学	Singapore University of Technology and Design	2022年10月	教育・研究分野での協力と交流の発展に関する覚書
タイ	泰日工業大学	Thai-Nichi Institute of Technology	2009年2月	短期学生交換に関する協定
	タマサート大学シリントーン国際工学部	Sirindhorn International Institute of Technology - Thammasat University	2009年6月 2023年4月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
			2023年4月	学生交換の促進に関する協定
	チュラロンコン大学	Chulalongkorn University	2021年7月	教育と研究における協力と交流の発展に関する覚書
	ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校	Rajamangala University of Technology Thanyaburi	2022年10月	教育と研究における協力と交流の発展に関する覚書
	タマサート大学	Thammasat University	2023年6月	交流および共同プログラム設立のための連携発展に関する覚書（理工学分野のみ）
	チェンマイ大学	Chiang Mai University	2023年6月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	マヒドン大学	Mahidol University	2024年8月 2024年8月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定
	VISTEC	Vidyasirimedhi Institute of Science and Technology	2025年1月	科学研究と教育における協力推進に関する覚書
ベトナム	ダナン工科大学	University of Science and Technology - The University of Danang	2016年3月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	カントー大学	Can Tho University	2019年11月 2025年1月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
インド	マニパル大学	Manipal Academy of Higher Education	2017年11月 2023年2月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
			2017年11月 2023年2月更新	学生交換の促進に関する協定

## オセアニア

国	交流大学等	英文表記	締結年月	協定の概要
オーストラリア	クイーンズランド工科大学	Queensland University of Technology	2009年3月	QUTが提供する学習プログラム（短期語学研修）に関する協定
	スインバン工科大学	Swinburne University of Technology	2015年6月	学術および教育事業（語学研修）における連携に関する協定
	ビクトリア大学	Victoria University	2025年12月	教育と研究における連携に関する覚書
	ディーキン大学	Deakin University	2026年3月	教育における協力関係の発展に関する覚書

## 北米

国	交流大学等	英文表記	締結年月	協定の概要
アメリカ	サンノゼ州立大学	San Jose State University	1997年5月 2000年5月改正	学術交流および友好協力関係に関する覚書（短期語学研修）
	ライス大学	Rice University	2010年2月 2020年7月延長	直接的な交流と連携の推進に関する覚書
	アンジェロ州立大学	Angelo State University	2015年4月	学生交換、学術交流に関する協定
	クレムソン大学	Clemson University	2016年8月	国際教育、研究、サービス、およびその他の関連活動における相互協力に関する覚書
	ジョージア工科大学	Georgia Institute of Technology	2018年6月	研究および教育分野における連携に関する協定
	ネバダ大学リノ校	University of Nevada, Reno	2022年4月 2025年7月	学術分野の連携強化、学術協力の促進に関する覚書 学部生と大学院生の交換に関する協定
	サンフランシスコ州立大学	San Francisco State University	2023年2月	学生、教職員のための教育・研究協力を強化するためのあらゆる可能性の検討に関する覚書
カナダ	OCAD 大学	OCAD University	2022年5月	国際・異文化理解と学術交流促進のための基盤提供と共同学術活動の発展・実施に関する覚書
	レジャイナ大学	University of Regina	2024年11月 2024年11月	学生および教職員交換の協力に関する協定 学生交換の促進に関する協定

中南米

国	交流大学等	英文表記	締結年月	協定の概要
メキシコ	グアナファト大学	The University of Guanajuato	2019年10月 2025年5月更新	学術活動の推進と国際的視野の獲得に関する覚書
			2019年10月 2025年5月更新	学生交換の促進に関する協定

ヨーロッパ

国	交流大学等	英文表記	締結年月	協定の概要
フィンランド	タンペレ大学	Tampere University	2014年2月 2025年12月更新	学術連携に関する協定（建築分野を除く）
	ユヴァスキュラ大学	University of Jyväskylä	2025年7月	教育と研究における交流と連携の発展に関する覚書
スウェーデン	ウプサラ大学	Uppsala University	2018年5月 2023年5月更新	教育と研究における交流と連携の発展に関する覚書（ゲームデザイン分野対象）
			2019年9月 2024年9月延長	学生交換の促進に関する協定（ゲームデザイン分野対象）
ノルウェー	スタヴァンゲル大学	University of Stavanger	2020年7月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書（理工学分野のみ）
			2020年7月	学生交換の促進に関する協定書（理工学分野のみ）
ポーランド	ヴロツワフ工科大学	Wroclaw University of Science and Technology	2016年3月 2021年3月更新	研究と教育分野における連携発展に関する協定
オランダ	デルフト工科大学	Delft University of Technology	2016年6月 2022年5月更新	工学教育および科学研究における連携促進に関する覚書（航空宇宙工学分野のみ）
	アイントホーフエン工科大学	Eindhoven University of Technology	2022年7月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書（電気工学分野のみ）
ドイツ	ヴッパタール大学	University of Wuppertal	2010年3月 2023年3月延長	教育と科学の連携に関する協定
			2018年3月 2023年3月延長	学生交換の連携に関する補足的協定
	ミュンヘン工科大学	Technical University of Munich	2020年10月 2026年2月更新	学生交換に関する協定書（工学部）
	ミュンヘン防衛大学	University of the Bundeswehr Munich	2009年12月 2020年7月更新	研究と高等教育における連携拡大に関する覚書
HAWK 応用科学芸術大学	HAWK University of Applied Sciences and Arts	2020年7月	学生交換に関する協定	
		2021年3月	教育と研究における協力と交流の発展に関する覚書（建築土木分野のみ）	
		2021年3月 2024年1月	学生交換の促進に関する協定（建築土木分野のみ）	
オーストリア	ウィーン工科大学	TU Wien	2013年5月 2023年3月延長	研究協力と教育交流の発展に関する協定
イタリア	トリノ工科大学	Politecnico di Torino	2025年1月	教育と研究における協力関係の構築に関する覚書
スイス	スイス北西部応用科学芸術大学	FHNW University of Applied Sciences and Arts Northwestern Switzerland	2024年1月	学生および教職員交換の協力に関する協定
フランス	パリ・デジタルイノベーション大学院	EPITECH (Ecole pour l'informatique et les nouvelles technologies)	2019年11月 2024年3月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
			2024年3月	学生交換の促進に関する協定
	ボルドー大学	University of Bordeaux	2020年12月 2025年12月更新	国際連携のための基本的合意
			2020年12月 2025年12月更新	学生交換に関する協定
	モンペリエ大学	University of Montpellier	2023年2月 2025年11月更新	学術交流と教育・研究における協力関係の促進に関する覚書
	ポリテクモンペリエ	Polytech Montpellier	2023年2月 2025年11月更新	学術交流と教育・研究における協力関係の促進に関する覚書
	ENTPE	Graduate School of Civil, Environmental and Urban Engineering	2024年1月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	パリ・ヴァル・ドゥ・セーヌ国立高等建築学校	Ecole Nationale Supérieure d'Architecture Paris-Val de Seine	2024年12月 2024年12月	学術協力と交流の発展に関する協定 学部生と大学院生の交換に関する覚書
	ストラスブール大学 国際知的財産研究センター	Strasbourg University, Centre for International Intellectual Property Studies	2025年3月	知的財産分野における国際協力協定（知的財産学部・研究科）
パリ建築大学	Ecole Spéciale d'Architecture	2025年7月	あらゆる知識分野における協力関係の構築に関する覚書	
スペイン	サラマンカ大学	University of Salamanca	2013年5月 2025年11月更新	大学間協力に関する国際的の基本合意
			2025年11月	学生移動に関する協力協定
	マドリード工科大学	Technical University of Madrid	2015年6月 2024年10月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
			2020年6月 2024年10月更新	学生交換の促進に関する協定

中東

国	交流大学等	英文表記	締結年月	協定の概要
トルコ	オジェギン大学	Ozyegin University	2023年12月 2023年12月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定
サウジアラビア	キング・アブドゥルアズィーズ大学	King Abdulaziz University	2014年9月	連携分野における学生・教員・研究者の交流に関する覚書

アフリカ

国	交流大学等	英文表記	締結年月	協定の概要
セネガル	ジガンシヨール大学	Assane Seck University of Ziguinchor	2023年2月	研修、研究、技術革新、地域社会への奉仕、知識および文化の普及に関する枠組み協定

## 大阪工業大学のグローバル学習支援について（2026年度）

対象プログラム	支援内容
語学研修、文化体験プログラム、大学が認定した留学プログラム等	アジア地域：5万円、アジア以外の地域：7万円 ※オンラインプログラムは対象外
国際PBL	渡航費補助：東アジア：4万円、東南アジア：6万円、それ以外の地域8万円 ※プログラム費用は受入大学が原則負担
イアエステ海外インターンシップ	・渡航費の実費（国・地域ごとに上限あり。エコノミークラスに限る） ・申請手数料（1万円）、プログラム参加料(10万円)
長期交換留学	・渡航費の実費（国・地域ごとに上限あり。エコノミークラスに限る） ・JASSO奨学金（月額8～12万円）
海外研究支援プログラム	・渡航費の実費（国・地域ごとに上限あり。エコノミークラスに限る） ・JASSO奨学金（月額8～12万円）または1日2,000円の生活費支援、派遣先での施設使用料（上限10万円）

※2026年4月から適用。支援額など条件を変更する場合があります。支援要件など詳しくは国際交流 HP で確認してください。

### 大阪工業大学 国際交流センター OIT International Center

海外協定校等から交換留学生を受入れ、本学学生との交流機会を設けています。

留学に関する相談を受け付けていますので、気軽にお越しください！

オンラインでの相談も可能です！

[場 所] 大宮キャンパス Chast1 階 [E-mail] OIT.Kokusai@josho.ac.jp

[開室時間] 月曜～金曜 9:00～17:00 [電話番号] 06-6954-4935

(土曜は行事および事前予約の場合を除き閉室。メール対応のみ)

#### オンライン個別相談

留学や国際交流に関する相談が可能です！  
下記 QR コードから予約をしてください。



#### 参加学生のレポート

留学に参加した学生にレポートが閲覧できます。OIT アカウントでのログインが必要です。



大学国際交流 HP



Instagram @oit.kokusai



X @OIT\_INTL



LINE @959vzyhe

### ランゲージ・ラーニング・センター (LLC) Language Learning Center

英語学習のための「英語空間」！スタッフは国際色豊かでフレンドリー  
コンサルテーション・ルームで先生と会話練習や、自分にあった英語学習  
プランのアドバイスを受けることができます。英語学習教材、映画 DVD、  
ゲーム、英語漫画などの利用もできます。

3階には女性専用のパウダールームもあり、  
女子学生にも利用しやすくなっています。

[場 所] 大宮キャンパス Chast (受付2階)

※梅田・枚方キャンパス向けのサービスもあります。

[開室時間] 授業期間中の月曜～金曜 9:00～19:00



LLC  
ウェブサイト





編集・発行 大阪工業大学 国際交流センター 2026年3月31日

〒535-8585 大阪市旭区大宮5丁目16番地1号

TEL (06)6954-4935

Website: <https://www.oit.ac.jp/international/index.html>